



Yokohama Arts Foundation

令和3年5月10日
(公財)横浜市芸術文化振興財団
大佛次郎記念館

八代目中村芝翫が、十世坂東三津五郎が、当代市川海老蔵が語る“これぞ！大佛歌舞伎”

「これぞ！大佛歌舞伎」では、1950年代に初演され現在まで続く、大佛次郎の新作歌舞伎《大佛歌舞伎*》をご紹介します。歌舞伎ファン必見の展示を是非ご覧ください！

大佛次郎は“戦後歌舞伎の華”とうたわれた九代目市川海老蔵（十一代目市川團十郎：当代海老蔵の祖父）にあて、多くの脚本を書きました。今回の展示のためにインタビューに答えた八代目中村芝翫は、がっちりとタッグを組んだ大佛次郎と九代目海老蔵との関係を「相思相愛」の言葉で表現しています。作品の多くは海老蔵の当たり役となり「若き日の信長」（1952）をはじめ「築山殿始末」（1953）「たぬき」（1953）といった作品は、現代にも受け継がれ、繰り返し上演されています。

1. 「新たなる挑戦」

【大佛歌舞伎の新しさは、海老蔵の新たな一面発見か？ はたまた大佛次郎の孤独の投影か!?!】

《大佛歌舞伎》全19作品のうち5作品<若き日の信長、築山殿始末、魔界の道真、殺生関白、大仏炎上>を取り上げ、貴重な舞台写真や資料とともに、作者=大佛次郎、役者=海老蔵、双方の言葉の端々から汲み取れる思いをたどります。（全19作品と初演時の配役はロビーにてご紹介）

守屋多々志筆「築山殿始末」
侍女小笹衣装図（八代目中村芝翫氏へ寄贈）



2. 「受け継がれるもの」 【作品を通じて受け継がれる大佛歌舞伎の「心」】

八代目中村芝翫のインタビューの一部を紹介。大佛歌舞伎の特徴や、父七代目芝翫から受け継がれる「築山殿始末」にまつわるエピソードが明らかに。また、当代市川海老蔵の2015年のインタビューから、三代にわたって受け継がれる「信長」への思いや祖父十一代目團十郎への思いを紹介。さらに、最後の歌舞伎舞台となった「たぬき」出演後につづった、十世坂東三津五郎の書簡を初公開。役者たちが語る大佛歌舞伎の「心」にせまります。

(*大佛歌舞伎=1950年代以降に上演された大佛次郎原作、書き下ろしおよび脚色の歌舞伎演目)

【主な展示資料】十世坂東三津五郎書簡(2014年9月3日)守屋多々志筆(日本画家)「若き日の信長」「築山殿始末」道具帖(舞台装置図)大佛次郎「若き日の信長」創作ノート他、約80点

【関連企画1】<2階サロン>八代目中村芝翫「オシャレギ先生の思い出」動画放映(約12分)

展示会期	2021年4月24日(土)～9月5日(日) 1期 4/24(土)～5/30(日) 2期 6/1(火)～7/4(日) 3期 7/6(火)～8/1(日) 4期 8/3(火)～9/5(日)	料 金	入館料 大人(高校生以上)200円 中学生以下 無料 ※横浜市内在住の65歳以上の方は無料 ※毎月23日「市民の読書の日」と、第2・第4土曜日は高校生無料 ※障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料
開館時間	10:00～17:30(入館は17:00まで)		
休館日	月曜日(祝休日の場合は翌平日)		

情報掲載をよろしくお願ひ申し上げます。記念館取材及び広報用画像の提供が可能です。

お問い合わせ先

大佛次郎記念館 【公益財団法人横浜市芸術文化振興財団】
館長：福富潤子 広報担当：大房奈央子 テーマ展示担当：安川篤子
TEL：045-622-5002 mail：osaragi@yaf.or.jp



大佛歌舞伎

これぞ！

おさき
誰より
さき

の世は地獄じや

新しい歌舞伎の
いのち
生命の輝きを

開館時間 10:00~17:30 (最終入館 17:00)
休館日 毎週月曜日 (祝休日の場合は翌平日)
観覧料 一般 / 200円 中学生以下 / 無料
20名以上の団体は150円
※横浜市内在住の65歳以上の方は無料。
※障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。
※毎月23日(市民の読書の日)と第2、第4土曜日は高校生無料。

2021
4.24(土)
▶ 9.5(日)

大佛次郎記念館 (公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)
The Osaragi Jiro Memorial Museum
〒231-0862 横浜市中区山手町113(港の見える丘公園内) tel:045-622-5002
fax:045-622-5071 <http://osaragi.yafjp.org>
協賛 株式会社浦辺設計 / 株式会社ボンバドウル / 横浜高速鉄道株式会社 / 大佛次郎研究会



大佛次郎記念館HP

大佛歌舞伎

おさらぎ

これぞ！

2021
4.24 (土)
▶9.5 (日)

大佛次郎は、“戦後歌舞伎の華”とうたわれた九代目市川海老蔵(十一代目市川團十郎)のために、多くの脚本を書きました。作品の多くは海老蔵の当たり役となったほか、「若き日の信長」(1952)をはじめ、「江戸の夕映」(1953)、「たぬき」(1953)といった作品は、現代にも受け継がれ、繰り返し上演されています。作者と役者の双方にとって新たな挑戦であった「大佛歌舞伎*」の世界にせまり、舞台にかける情熱を浮かび上がらせませす。

*戦後上演された大佛次郎原作もしくは脚色の歌舞伎



①



②



③



④



⑤

- ①九代目市川海老蔵(十一代目團十郎)、年代不明
- ②大佛次郎書込み入り「若き日の信長」台本、1952年10月
つきやまどのしまつ ことさき
- ③「築山殿始末」侍女小笹 衣装図、守屋多々志筆
- ④七代目中村福助(七代目芝翫)「築山殿始末」書抜 1953年10月初演
- ⑤七代目芝翫と大佛次郎 1971年頃

なかむら しかん
八代目中村芝翫が語る
「“オシヤラギ”先生の思い出」
動画を放映!! (2階サロン)

大佛次郎記念館ブックレット
歌舞伎エッセイ集 I「海老さんのこと」、II「吹切れる」
2冊同時発売! ともに450円(税込)
十一代目市川團十郎、七代目中村芝翫、三代目市川左團次ほか名優たちについて記した珠玉のエッセイを収録。

大佛次郎研究会
第34回公開発表会

5.21(金)14:00~16:40
「大佛次郎と歌舞伎」

講師:小柴俊雄「大佛次郎歌舞伎とその中の横浜作品」
織田紘二「大佛次郎と歌舞伎~国立劇場の思い出~」
朗読:原田静

会場 神奈川近代文学館ホール
横浜市中区山手町110

入場 先着110名様(資料代500円)当日、会場へ

主催 大佛次郎研究会

なるほど! Q
大佛歌舞伎 謎解き

館内めぐり、謎を解こう!
お試しはこちら↓
ここに隠れた言葉はなに?

支那 罅

- 電車**
- みなとみらい線(東急東横線直通)元町・中華街駅から徒歩8分(5番出口から谷戸坂またはフランス山経由、6番出口からアメリカ山公園経由:エレベーター有り)
 - JR 根岸線石川町駅から徒歩20分
- バス**
- 神奈川中央交通バス11系統(桜木町~保土ヶ谷駅東口)市営バス20系統(山手駅~桜木町駅)「あかいくつ」号中華街・元町ルートにて港の見える丘公園前バス停で下車、徒歩2分



展示解説
毎月第2土曜日 14:00~14:30
5/8・6/12・7/10・8/14

「たてものミニ・ミニ・トーク」
毎月第3土曜日 14:00~14:15
5/15・6/19・7/17・8/21
セブンランプなど、大佛次郎記念館の建築の魅力をご紹介します。

次回 展示予告
「カリカチュア(風刺画)でたどるパリ・コミュニケーション」(仮)
9月11日(土)~12月25日(土)
大佛次郎フランス四部作の最後を飾る『パリ燃ゆ』に描かれた、1871年のパリ・コミュニケーション150周年を記念する展覧会。